コンクリート製品メーカーが選ぶ
2013年の10大ニュース

1. **ゴールコン擁壁が全国初の9m擁壁大臣認定取得**
2. **インフラテック、阪神工業・ネオジオを傘下に**
3. **ついに国土強靭化基本法成立**
4. ヤマックス、長崎・青森で業務提携
5. 2020年東京オリンピック開催決定、1兆円超の市場創出
6. 出荷好調なコンクリート製品業界
7. ハレーサルト、SCMT3で先駆的技術賞受賞
8. 全コンなど3団体、国交省技術担当者と意見交換会
9. ソーラーパネル架台基礎、各地で大量施工
10. 防草タイプのブロックに参入相次ぐ

第2位のインフラテック（鹿児島県・社長＝松﨑秀雄氏）による阪神工業グループの救済型M&Aは、コンクリート製品業界全体に大きな衝撃を与えるニュースだった。多くの投票者が「非常に驚いた」と感想を寄せている。アベノミクス効果で、ようやく業界の先行きに明るさが見えてきた矢先だっただけに、コンクリート製品業界の業績二極化が企業規模に関係なく進んでいることを改めて浮き彫りにした。と同時に、大手コンクリート製品企業の多くが救済型M&Aを通じた企業規模拡大の手法を強く意識する契機となったとも言える。これまでのように民事再生手続きに入った企業の支援を通じて傘下に収めるだけでなく、業績不振に陥っている中堅以上の企業に狙いをつけて今回のような救済型M&Aにより企業規模の拡大を図る動きが大手企業で加速するのは間違いない。その意味で、業界再編が新たなステージに入ったことを象徴するニュースだったとも言えよう。阪神工業グループを傘下に収め、インフラテックの年商は220億円に拡大。松﨑社長は今年3月に本紙が行ったインタビューに対し「年商500億円を目指す」と語っており、今後の業界再編に向けた同社の動向から当分目が離せない。